（令和5年12月5日作成）

令和5年度大阪府中学生チャレンジテスト　中学3年生　結果概要

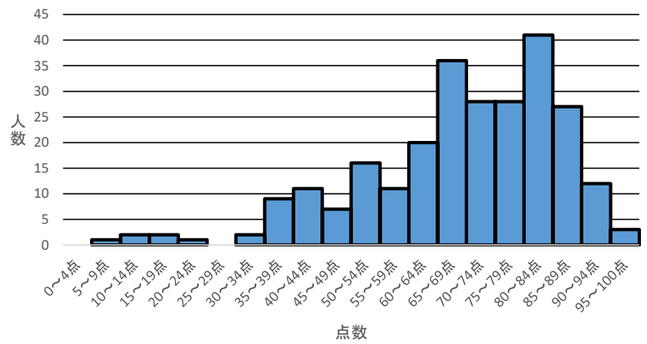
教育推進課

実施日時：令和5年9月5日（火）
対象・内容：**第3学年**〈国語・社会・数学・理科・英語、各教科アンケート）
※理科はC問題を選択

実施校数：2校（府内468校）
実施生徒数：257人（府内58，451人）

1．度数分布及び教科別結果概要（平均点）

国語

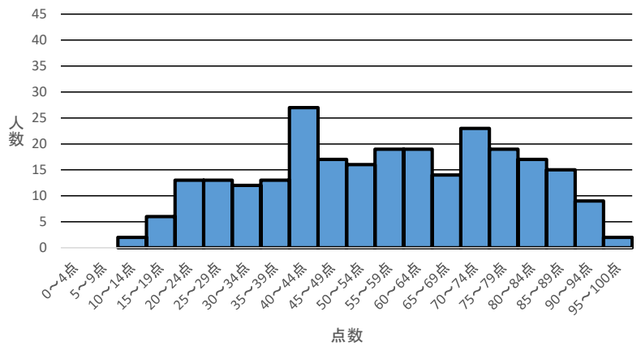


	平均点	無回答率
島本町	68.8	6.3
大阪府	62.1	10.3

良好
・手紙の主文の書き出しについて理解することができる
・多様な語句について理解している

課題
・文脈に則して漢字を正しく読んでいる（柔和）
・資料を活用し、根拠を明確にして話すことができる

理科C

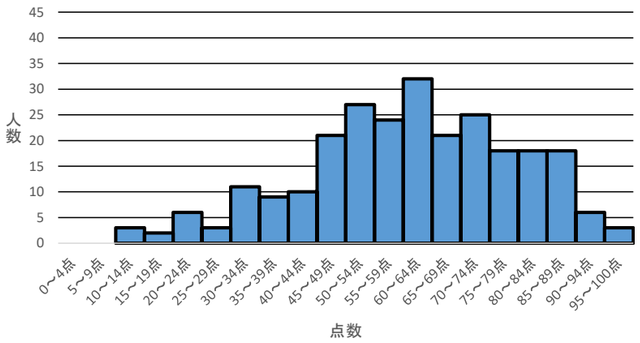


	平均点	無回答率
島本町	56.4	4.0
大阪府	47.6	9.0

良好
・メスシリンダーの基本的な扱い方について理解している
・花粉管について理解している

課題
・異なる経路を通って届く光の道筋について考え表現することができる
・密度、質量、体積の関係について理解し、活用することができる

社会

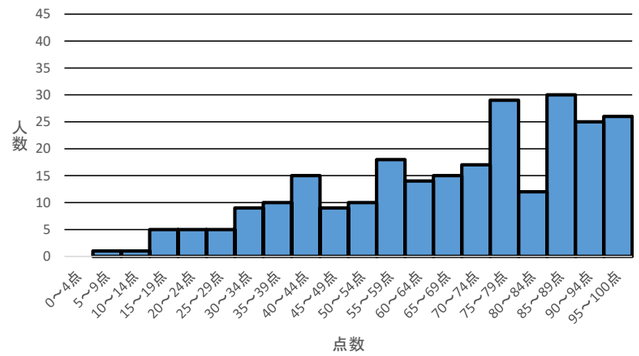


	平均点	無回答率
島本町	60.8	2.2
大阪府	54.7	3.1

良好
・ユーロについて理解している
・江戸時代の日本とオランダの関係や、井伊直弼について理解している

課題
・明治時代の労働事情や工場法について理解している
・大日本帝国憲法が発布されるまでのできごとの推移を考察することができる

英語

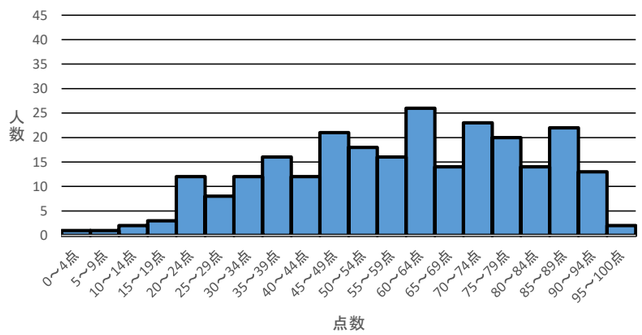


	平均点	無回答率
島本町	68.0	2.9
大阪府	54.2	6.5

良好
・日常的な話題についてのまとまった説明を聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握することができる
・短いやりとりを聞いて話し手の意向を正確に理解し、会話の続きとして適切な応答を選択することができる

課題
・与えられた情報に基づいて、指示された語数で正しい英語を書くことができる

数学



	平均点	無回答率
島本町	59.0	7.1
大阪府	52.2	11.2

良好
・空間における直線と直線の位置関係を理解している
・箱ひげ図における代表値、範囲、四分位数、四分位範囲を読み取ることができる

課題
・事象を数学的に解釈し、グラフを書くことができ、グラフ上の座標を読み取ることができる
・着目した数量の関係から連立二元一次方程式をつくることができる

＜結果概要＞
国語：問題形式では、すべての形式で大阪府平均を上回る結果となったが、知識及び技能の観点における、「情報の扱い方に関する事項」で大阪府平均との開きが小さくなった。

社会：地理的分野と比較し、歴史的分野において大阪府平均との開きが小さかった。知識・技能の観点で得点率が高いため、定着が進んでいると分析できる。

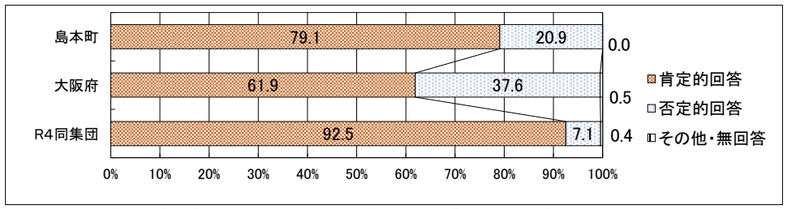
数学：どの問題形式でも大阪府平均を上回る結果であるが、特に短答式の問題で平均点が高かった。一方、データの活用問題で、特に大阪府平均との開きが小さくなった。

理科（本町はC問題）：知識・技能の観点で得点率が高く、特に粒子・生命領域についての問いでよく得点できていた。エネルギー領域の問いについては大阪府平均をわずかに上回った。

英語：いずれの領域でも大阪府平均を上回ったが、書くことの観点で、特に大きく上回った。しかし、問題形式では記述式が選択式と比較して、大阪府平均との開きが小さくなった。

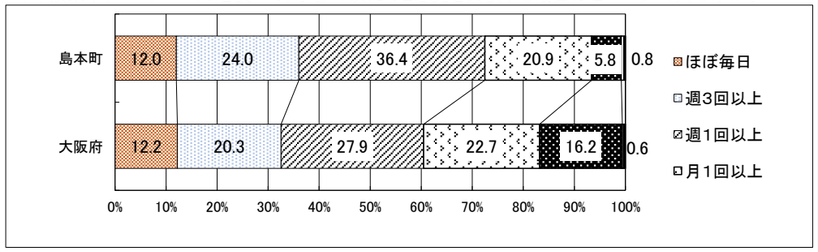
2. アンケート（抜粋）

（3）授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。

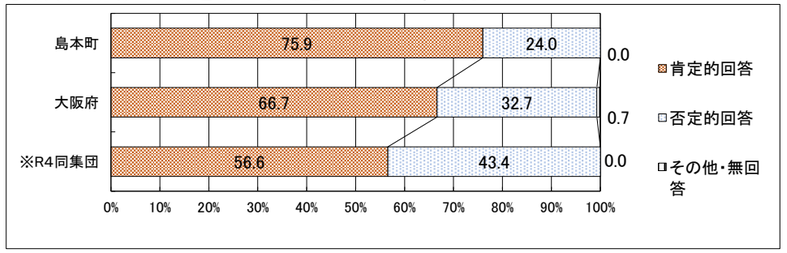


※令和4年度までは『授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。』

（4）授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。

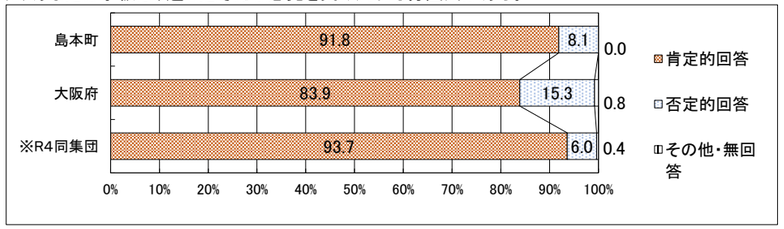


（5）家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。



※令和4年度までは『自ら課題を見つけて、家で勉強している。』

（6）あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。

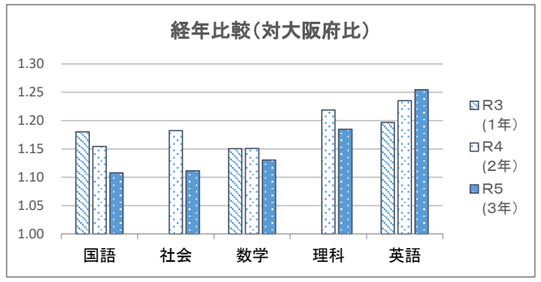


※令和4年度までは『授業中、間違っても笑われない。』

＜アンケート結果について＞
〇本年度からアンケート項目が一新され、同一の項目を用いた分析は不可能となったものの、類似の項目を用いて分析を試みた。（5）は昨年度の類似項目と比較して肯定的回答が20%近く向上した。進路を意識し、自らの学びを調整した成果と考えられる。（6）については、これまで、各中学校が主体的・対話的で深い学びについて、生徒同士の対話を促すような課題設定や、互いを認め合う人権についての学習を続けてきた成果と考えられる。今回のような成果が他学年や他校種でも確認できるよう、取組を進めていきたい。
●一方で、（3）については学年を経るにしたがって肯定的回答の割合が低下し、（4）もほぼ毎日～週3回以上と回答した生徒の割合が、府平均と比較すると上回ってはいるものの、高いとは言えない結果となっている。ICT機器を用いて自分の意見を表明して全体で共有する、作品鑑賞に係る個人の感想を全体で共有するなどの機会を増加させ、さらにどのような場面でのICT機器の活用が効果的かの研究が必要である。

3. 教科別の3か年の推移（1年次は国・数・英のみ）

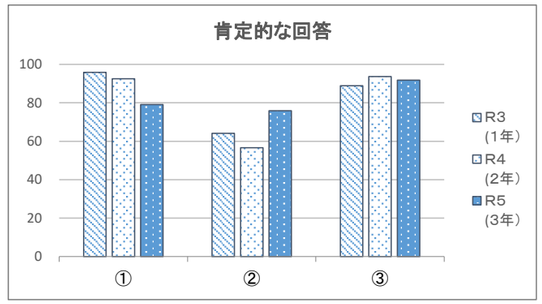
	国語	社会	数学	理科	英語
R3（1年）	1.180		1.150		1.197
R4（2年）	1.154	1.182	1.151	1.218	1.235
R5（3年）	1.108	1.112	1.130	1.185	1.255



4. 教科アンケート　類似質問への肯定的回答状況　質問事項　経年比較

①授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。
※令和4年度までは『授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。』

②家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。
※令和4年度までは『自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。』

③あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。
※令和4年度までは『授業中、間違っても笑われない。』

	①	②	③
R3（1年）	95.8	64.1	88.9
R4（2年）	92.5	56.6	93.7
R5（3年）	79.1	75.9	91.8